



2014年の御挨拶

鹿児島大学病院 心臓血管内科 部門科長 大石 充

2014年も2月となり鹿児島大学病院心臓血管内科に赴任して1年が過ぎました。鹿児島県の医療関係者の皆様に暖かく支えられて何とか1年を送ることが出来たと思っております。桜ヶ丘 Heart Club の紙面を借りまして厚く御礼申し上げます。

昨年は鹿児島市内の5つの地区の医師会の先生方と病診連携を目指した循環器カンファレンスを開催することが出来ました。我々の診療内容をご紹介したり、地域の開業医の先生方からご質問を頂いたりして有意義な時間を過ごすことが出来ました。何より情報交換会で我々のチームリーダーと地域の先生方とが顔の見える距離でお話を出来たことが大きな収穫だと思っております。本年は鹿児島市以外の鹿児島県下医師会で循環器カンファレンスを開催して、鹿児島県の至る所の先生方と顔の見える関係を構築したいと思っております。先生方の医師会にお邪魔をさせていただいた暁にはご面倒でも足を運んでいただけましたら幸いと存じます。

鹿児島大学病院の改築が進んでおり、本年1月よりC病棟がオープンして、我々心臓血管内科も8階西病棟よりC棟5階へ本拠地を移すことになりました。新病棟は非常に明るく開放的

で、患者様がくつろぐデイルームは全面開放されたガラス窓より桜島を目の前に望むことが出来て、病気に立ち向かう勇気を与えてくれるような気がします。大学病院全体の改装にはさらに約10年を要する一大事業ではありますが、B棟には桜島が一望できる一角にリハビリルームが完備されて、良い景色を楽しみながら心臓リハビリに励んでいただけるような環境も整うと思われま

す。就任以来「大学病院が地域の最後と砦となるべきである」という私の言葉の元に、医局員が頑張っ

て診療に当たってくれたおかげで、入院患者・収益ともに前年比大幅アップとなりました。2014年2月より不整脈および心臓カテーテルグループにそれぞれ1名の増員し、さらには高血圧・動脈硬化グループに米国より基礎研究留学を終えたメンバーが1名加わります。このようにしてさらなる臨床能力の強化を図り、先生方からのご期待に添えるように頑張っていきたいと思っております。

就任2年目を迎える今年は循環器救急を積極的に診療させていただき、地域医療に貢献すると共に、医療技術を磨いて少しでも鹿児島島の医療に貢献できるように願っています。

心臓血管内科への紹介方法

FAX 新患予約 (8:30-17:00)

紹介患者予約申込書に必要事項を記載し、FAXで予約の申し込みをお願いします。

◆医務課外来初診予約担当：FAX 099-275-6698 TEL 099-275-5168

予約申込書は下記にてダウンロードできます。

<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/medical/shoukai.html>

時間内 (平日 8:30-17:15)

◆緊急受診：ハートコール 099-283-9230

◆検査予約・その他：099-275-5731 (内科外来→心臓血管内科当番医へ)

時間外 (平日 17:15-8:30, 土日祝日)

◆緊急受診：099-283-9350 (救急部当直)

心臓血管内科医局ならびに診療体制

医局長：湯浅敏典	副医局長：桶谷直也
外来医長：窪菌琢郎	副外来医長：宮田昌明
病棟医長：高崎州亜	副病棟医長：内匠拓朗

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1

◆医局 TEL:099-275-5318 FAX:099-265-8447

◆外来 TEL:099-275-5731

◆病棟 TEL:099-275-5742

Cardiovascular Medicine

鹿児島大学病院 心臓血管内科



ご紹介いただいた症例の経過報告と解説.

成人期まで外科的介入なく経過した Shone 症候群の一例

毛利翔悟 茶園秀人 川添 晋 窪菌琢郎

〈症 例〉 30 歳男性 〈主 訴〉 労作時呼吸苦

〈既往歴・家族歴〉 特記事項なし

〈現病歴〉 出生時に先天性僧帽弁疾患を指摘されるも、症状は幼少期激しく遊んだ時の息切れ程度で日常生活に支障なく経過した。その後もほとんど症状なく経過していたが、26 歳時労作時呼吸苦出現し近医受診。パラシュート僧帽弁による僧帽弁狭窄兼閉鎖不全、及びそれに伴う心不全の診断で入院加療となった。退院後も NYHA 2 度の症状あり、僧帽弁手術を勧められ当科紹介入院となった。

〈現症〉 身長 166cm, 体重 45kg 血圧 114/57 mmHg, 脈拍 76/min, 不整。

心音：心尖部を最強点とする汎収縮期雑音 (Levine III/VI)。

呼吸音：清。 腹部：平坦, 雑音聴取せず。

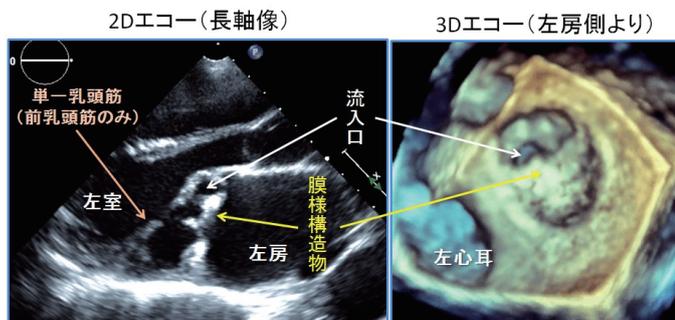
四肢：両橈骨動脈触知良好, 両大腿動脈触知不良, 下腿浮腫なし。

〈採血〉WBC 7710 / μ l, Hb 13.9 g/dl, Plt 28.3 万, BNP 73.8 pg/ml

〈心電図〉 心房細動 〈ABI〉 右 0.56 左 0.64 (右) 上肢血圧 110/54mmHg, 下肢血圧 64/44mmHg, (左) 上肢血圧 114/57mmHg, 下肢 73/44mmHg

〈心エコー検査〉

LVDd/Ds 59mm/44mm, EF 48%, LAD 52mm, Severe MS (MVA=0.95cm²: 後乳頭筋無し、僧帽弁口は外側へ偏位), Severe MR, TR PFV=2.76m/s, RVSP=40.5mmHg, 大動脈縮窄+ (ドプラ上、圧較差 43mmHg)

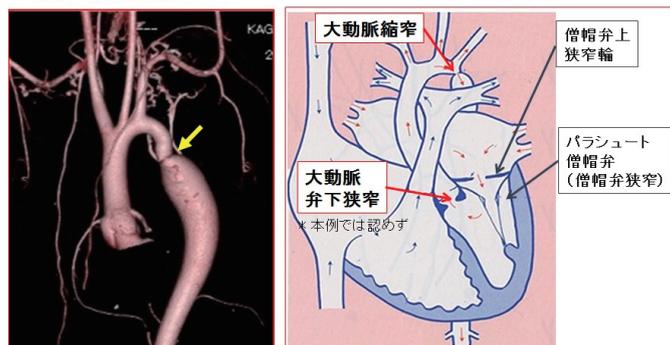


〈心臓カテーテル検査〉

大動脈縮窄部 圧較差 30 mmHg、肺動脈圧 44/18 mmHg (肺高血圧+)、僧帽弁口面積 0.75 cm²

造影CT(3D)-大動脈縮窄

Shone症候群



左室の流入側、流出路側にそれぞれ狭窄病変あり。

〈経過〉

当科外来および入院での検査で乳頭筋が前乳頭筋のみ (単一乳頭筋) のパラシュート僧帽弁に加え、僧帽弁輪上狭窄を認め、さらには大動脈縮窄も合併しており、Shone 症候群の診断に至った。高度の僧帽弁狭窄兼逆流と有意な上肢下肢動脈圧較差を呈しており、僧帽弁および、大動脈縮窄の手術適応と判断され当院心臓外科へ紹介となった。術中所見では術前診断所見と同様であり、僧帽弁置換術 (SJM27mm) および、大動脈縮窄に対して上行大動脈-下行大動脈バイパス術を施行され、退院となった。

〈考察：Shone 症候群〉

パラシュート僧帽弁 (乳頭筋が一つのみ)、僧帽弁上狭窄輪、大動脈弁下部狭窄、大動脈縮窄のうち 2 つ以上を合併し、左心室の流入路と流出路の狭窄を認める先天性の症候群である。新生児期または乳児期から心不全症状を呈し殆どが手術を施行されるため、成人期まで外科的介入なく経過する例は稀である。予後は僧帽弁上狭窄輪の狭窄の程度や肺高血圧の程度に規定されるとされるが、本症例では肺高血圧の程度も軽度であったことが、成人期まで手術を要しなかった理由と考えられる。本症例のようにパラシュート僧帽弁は他の心奇形合併の割合が高い (CoA 68%, ASD 54%, VSD 46%, など) と報告されている。(Schanerian MV, et al. Circulation 2004) 今回はエコー検査時にその他の合併奇形の有無を疑ったことが、大動脈縮窄の指摘につながり、最終的に Shone 症候群の診断に結びついた。先天性心疾患例では複数の心奇形合併に注意して検査を行う必要がある。

心臓血管内科 外来担当表

外来医長：窪菌琢郎 副外来医長：宮田昌明

外来受付は完全予約制（午前のみ） 初診：水曜日以外、再診：全ての曜日
 ※各曜日ともに、今まで通り専門にかかわらず一般循環器診察全般をお受けいたしますが
 専門的な診察・治療をご希望の患者様のために下記専門をご参照ください。

	担当医	専門	心エコー外来	特殊検査	当番医
月	宮田 窪菌 赤崎 内匠	動脈硬化・脂質異常・高血圧 心不全・心臓リハビリ 高血圧・動脈硬化 虚血性心疾患・末梢血管疾患	茶園	心筋シンチ ：宮内 CPX：窪菌	宮田
	窪田	肺高血圧専門外来			
火	大石教授 宮田 湯浅 嘉川 入来	教授外来・難治性高血圧 動脈硬化・脂質異常・高血圧 弁膜症・先天性心疾患 女性外来 不整脈	堀添 茶園（AM）		湯浅
水	宮田 高崎 赤崎 溝口	動脈硬化・脂質異常・高血圧 弁膜症・先天性心疾患 高血圧・動脈硬化 高血圧	堀添		赤崎
木	桶谷 窪菌 茶園	不整脈 心不全・心臓リハビリ 弁膜症・先天性心疾患	堀添	トレッドミル ：担当医 CPX：窪菌	桶谷
金	大石教授 窪菌 赤崎 宮内	教授外来・難治性高血圧 心不全・心臓リハビリ 高血圧・動脈硬化 高血圧・動脈硬化	茶園		窪菌
	桶谷	不整脈専門外来			

月曜日再来のみ：木佐貫 病棟医外来：火、木、金

鹿児島大学病院 心臓血管内科 新病棟のご紹介

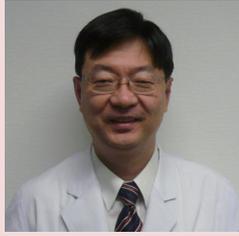
“8西” から “C棟5階” へ



心臓血管内科の病棟は、一内科時代から病棟診療拠点であった8西病棟より、昨年末に移動になりました。8西病棟は当科医局員、先輩方のほとんどが医師として最初に勤務し、巣立った場所なので、そこを離れるのは感慨深い気持ちになります。新しい心臓血管内科病棟は新病棟（C棟）の5階です。C棟は昨年10月に完成したばかりの新しい病棟で、屋上にヘリポート、最上階にはエコーやカテーテル、内視鏡検査などのシュミレーションセンターも新設されています。大学病院の中でも最も眺めのよい場所に立地し、フロアも広く、患者さんは快適に入院生活を送っていただけるものと思います。

准教授就任の御挨拶

宮田昌明 先生
(昭和 61 年入局)



前任の濱崎秀一先生が市立病院に転出され、その後任として2013年12月1日付けで、心臓血管・高血圧内科学教室の准教授を拝命いたしました。准教授として大石教授や教室員をサポートし、旧一内科の良き伝統である、患者本位の全人的医療、オリジナリティーの高い研究、質の高い教育を後輩に伝えてゆきたいと思っています。

鹿児島で生まれ、育ち、昭和61年に鹿児島大学を卒業し、第一内科に入局しました。その後もロックフェラー大学留学で3年間ニューヨークに住んだ以外は鹿児島で医学・医療に勤しみ、総合内科専門医、循環器専門医、高血圧専門医、動脈硬化専門医、温泉療法専門医を取得しました。動脈硬化性疾患とその危険因子である高血圧や脂質異常症と心不全を専門として診療と研究と教育に携わっていますが、鹿児島大学の責務として地域医療を支えることも重要な任務であり、地域の先生方との病診・病病連携を積極的に進めたいと考えています。先生方の日常診療において、心臓や血管の病気の患者さんでお困りの症例がございましたら、ご紹介頂ければ幸いに存じます。

大石教授の就任にともない新しく生まれ変わった教室が、風通しの良い魅力ある教室になるように、微力ながら准教授として全力を尽くす覚悟です。今後とも皆様のお力添えやご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

2月異動の御挨拶

市来 仁志 先生
(平成 10 年入局)



H26年2月より、鹿児島医療センターから鹿児島大学病院へ異動となりました。約1年ぶりの大学病院復帰となりましたが、新病棟が完成した関係で、環境に慣れるのに少し時間がかかりそうです。不整脈治療を中心に地域医療のために少しでもお役に立てるよう精一杯頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。

たけし
菌田 剛嗣 先生
(平成 18 年入局)



初期臨床研修後、平成18年に旧第一内科に入局しました。鹿児島市医師会病院、川内市医師会立市民病院、鹿児島市立病院で勤務させて頂き、この度2月より7年超ぶりに鹿児島大学病院心臓血管内科へ戻って参りました。これまで勤務していた病院では各地区の先生方より多数症例を御紹介頂いておりました。大学病院でも頑張りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

今後の予定

循環器疾患カンファレンス

- 4/14 (月)
指宿いわさきホテル (指宿医師会)
- 4/15 (火)
鹿児島空港ホテル (始良地区医師会)
- 4/18 (金) 18時45分～
十八番館 (日置市医師会)
- 5/9 (金) 19時～
大島郡医師会館4階ホール (大島郡医師会)
- 5/20 (火) 19時～
松屋旅館 (南薩医師会)
- 5/21 (水) 18時45分～
串木野 さのさ荘 (いちき串木野市医師会)
- 6/5 (木) 19時～
さつき苑 (鹿屋市医師会)
- 6/20 (金) 19時～
ホテル祁答院 (薩摩郡医師会)

<編集後記>

桜ヶ丘 Heart Club も第2刊を発刊することができました。これも地域の先生方のご協力の賜物です。今回は大石教授就任後ちょうど1年であり、昨年12月には宮田准教授が就任となり、当科各循環器グループの診療体制もようやくその土台ができたところです。今年もより良い循環器診療を目指して、地域の先生方と連携できればと思いますので、宜しく願いいたします。またご意見などございましたら遠慮なくお寄せいただきたく存じます。

桜ヶ丘 Heart Club 第2号
平成26年2月27日発行
発行者 大石 充
編集 湯浅敏典

